

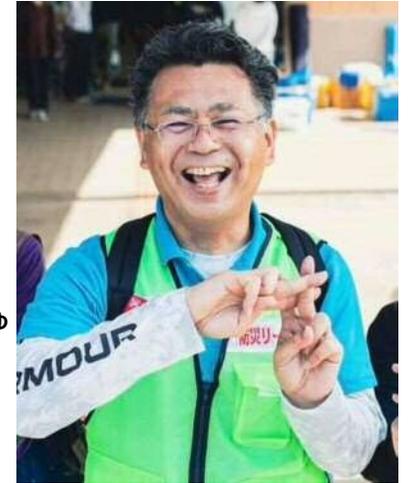
## 被災者支援×NPO・ボランティア団体

### 災害支援ふくおか広域ネットワーク Fネット 幹事 松田 光司

## 自己紹介

松田 光司 (まつだ こうじ)

- ・久留米大学法学部の教授
- ・久留米市ボランティア連絡協議会の理事
- ・くるめ災害支援ネット「ハッシュ」の会長
- ・災害支援ふくおか広域ネットワーク (Fネット) の幹事
- ・久留米大学災害ボランティアネットワーク「ゆめくる」の顧問
- ・「本業+α」×「そなえるくるめ」の副代表
- ・久留米市西国分校区自主防災組織 改革担当



## 災害支援ふくおか広域ネットワーク F ネット とは？

災害支援に携わる多様な主体（自治体・社会福祉協議会・民間団体、等）の連携を通じて、平時の備えと災害時における被災者・被災地の支援を行うことを目的とした、福岡地域の災害ボランティア団体ネットワークです（令和3年3月設立）。

平時からお互いに顔の見える関係を構築し、災害時の円滑かつ効果的な被災地支援の活動環境向上に努めています。

## 会員の状況

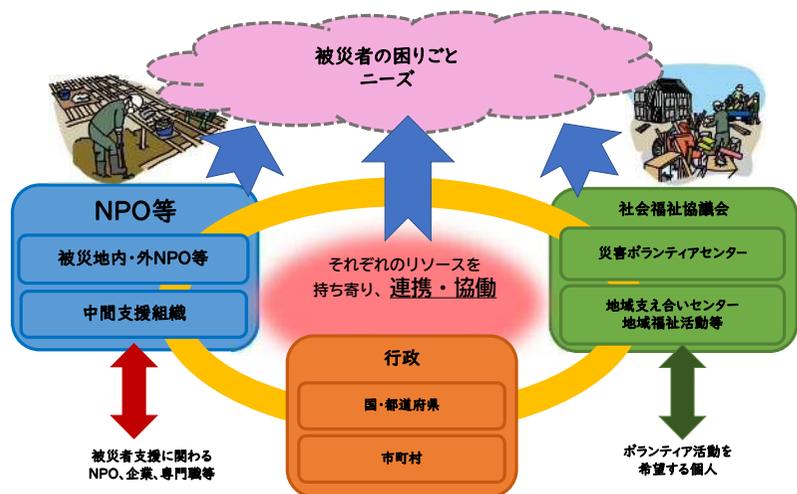
- ・会員：22団体と6個人
- ・役員：会長1名・副会長3名・幹事7名・監事2名
  - ・会長 村江 史年（北九州市立大学 地域共生教育センター副センター長 兼 地域創生学群准教授）
  - ・副会長 吉田 敦（NPO法人福岡被災地前進支援 理事長）
  - ・副会長 味酒 安儀（(公社)日本青年会議所九州地区 福岡ブロック協議会）
  - ・副会長 平川 文（一般社団法人Camp 理事）

## 「F ネット」だからできること 被災地と被災地支援団体のマッチング

- ・設立と同時に「全国災害ボランティア支援団体ネットワーク(JVAOD)」とパートナーシップ協定を締結しています。
- ・JVOAD と連携することで、災害時には県内の被災地支援団体だけでなく、様々な得意分野(ボラセン運営・避難所運営・技術系支援・子ども支援、等)を持つ県外及び全国レベルの支援団体を被災地に紹介し、被災地と支援団体をマッチングすることができます。

## 「F ネット」だからできること 情報共有会議の開催

- ・情報共有と被災地支援課題への対応協議
- ・2021年3月24日に福岡県・福岡県社会福祉協議会との三者で「災害ボランティア活動の連携支援に関する協定」を締結
- ・大規模災害が発生した際には、この三者連携協定に基づき情報共有会議を主催します。県・県社協の他、被災自治体や市町村社会福祉協議会、被災地支援団体等も参加し、被災者・被災地ニーズを迅速に把握し、円滑かつ効果的な支援につなげます。



被災者支援のための  
行政・社協・NPO  
等の連携の必要性

- 被災者支援は行政の責務だが、民間の多様な主体による支援も必要。このため、自治体は、他自治体からの応援受入れのほか、災害ボランティアセンター(VC)やNPO・ボランティア、企業・経済団体、協同組合、中間支援組織等の多様な主体との連携・協働が必要。
- 特に、被災者支援活動や海外での難民支援活動等の専門性を有するNPO・ボランティア等や、物資・資金・技術・人員など独自の強みを活かした支援活動を行うことの出来る企業・経済団体との連携は非常に有効。
- 災害VCでの調整を経ず独自に活動する支援団体など、近年多様化しており、「行政」「災害VC(社協)」「NPO等多様な主体とそれを支える中間支援組織」による「三者連携」が重要。
- 効果的な支援実施のため、地元NPO等との連携や、中間支援組織による情報共有会議の開催等が有効。このため、コーディネーションに長けた中間支援組織との連携が必要。

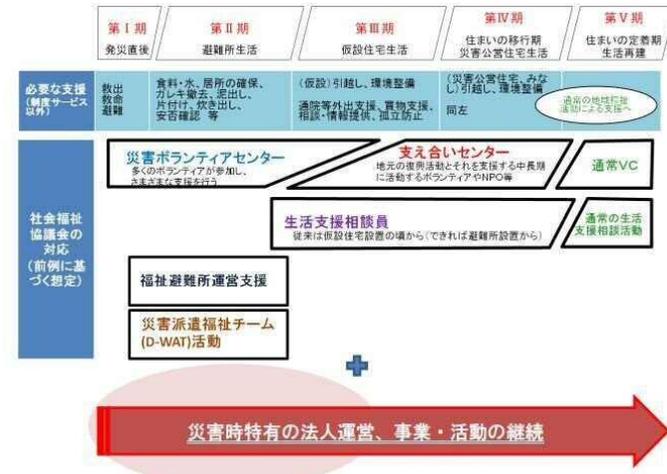


(平成30年4月公表)

防災における行政の  
NPO・ボランティア等  
との連携・協働ガイド  
ブック

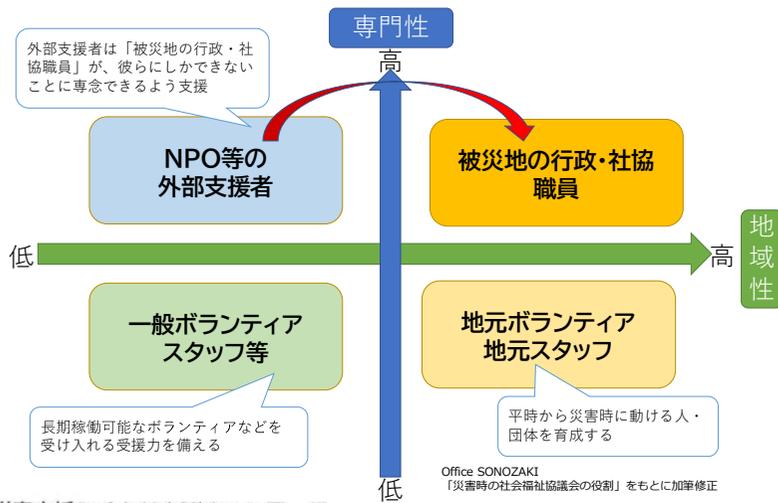


# 災害発生時に行政に求められること

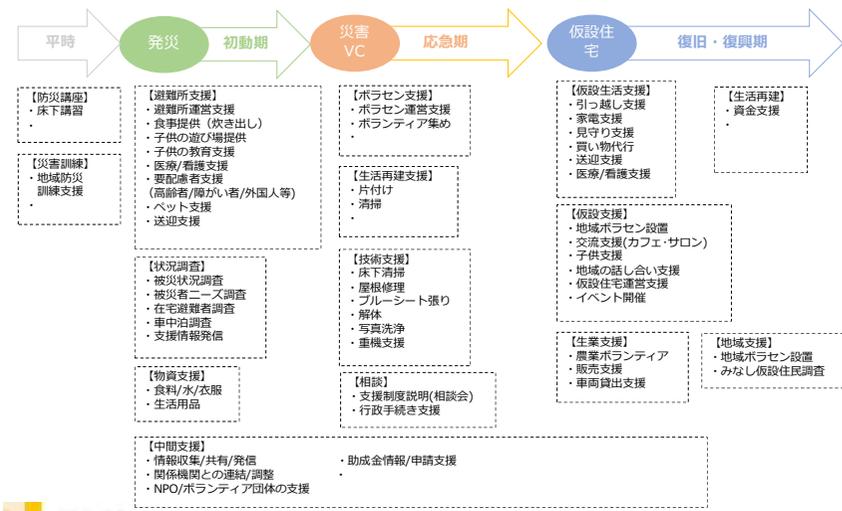


被災地に対する社協ネットワークの役割と支援の提案 (2019年5月22日) より引用

# 被災者の生活フェーズの移行と社協に求められる支援



# 災害時における行政・社協と外部支援者 (NPO等) との協働関係



# NPO等の外部支援者が出来ること (平時〜発災〜復旧復興)

# 令和3年

## Fネットの三者連携事例

- 久留米市（協働推進課）
- 久留米市社会福祉協議会
- 福岡県（社会活動推進課/消防防災課）
- 福岡県社会福祉協議会
- 災害支援ふくおか広域ネットワーク



13



14



令和3年8月豪雨  
情報共有会議



令和3年  
久留米市社協災害ボ  
ラセン城島サテライト  
県社協、トヨタ、ダイハツ



15



16

## 令和4年豪雨災害

## 合同災害ボランティア

- ・小規模ですが、平成24年の豪雨で被害があった同じ家屋が被災
- ・久留米市の社会福祉協議会とFの会員のハッシュとうきは市の「螢火」、朝倉市の「Camp」、八女市の「がんばりよるよ星野村」などと一緒に対応



西国分校区自主防災  
組織から土嚢の提供

## その次のネットワーク活用

- ・災害が起こった地域の土嚢をかき集めたが、足りない。
- ・災害が起こらない西国分校区自主防災組織が作成した土嚢を移動させた。
- ・毎年訓練で作った土嚢が役にたった。

## 自主防災組織が閉じたネットワークへ

- ・ 少子高齢化に伴い、自主防災組織の担い手が少なくなり、同じメンバーが長年担当して下さっている状況。
- ・ 地元に強固なネットワークをもっているが、新しい繋がりが生まれにくい。
- ・ 久留米市は、校区の推薦で自主防災組織に取り込まれる仕組みになっている。
- ・ **市民団体が推薦し、久留米市役所から校区の枠に入れ込む新制度**

## 令和5年



令和5年3月  
床下浸水対策講習会  
23

## 平常時の繋がり

- ・ **ハツシュ**主催の校区向けの研修にFネット幹事団体（**Camp**、**萤火**）を招待
- ・ 久留米市でリノベーション設計施工、DIYワークショップの企画・運営、空き家対策や移住定住支援などを行っているH&A brothersを招待
- ・ 校区の振興会会長、自治会長や被災する可能性がある住民の直接繋がる。
- ・ 事前復興の準備

## 令和5年7月10日豪雨災害



7月11日  
情報共有・調整  
県社協、市社協、結

## 久留米市災害ボランティアセンター

- ・ 7月12日から災害ボランティアセンター開設
- ・ ボランティア申し込みが殺到する。
- ・ 現場に行く予定の学生災害団体の学生も電話対応へ

## 令和5年 福岡県における大雨災害に関する情報共有会議

- ・ 7月12日 第1回情報共有会議 173名
- ・ ……
- ・ 9月07日 第8回情報共有会議 26名



災害支援ふくおか広域ネットワーク  
DISASTER RELIEF NETWORK FUKUOKA

# 久留米連携会議

29

## 令和5年7月豪雨久留米連携会議

- JVOAD や筑後川コミュニティー財団、YNF、Fネット、ハッシュなど久留米連携会議を立ち上げました。その結果、災害対応の団体だけでなく一般的な活動をしているボランティア団体・法人や個人（本団体、社会福祉法人拓く、被災地域の住民）の参加もありました。その結果、家屋の土砂出しだけでなく、被災者宅の個別訪問、家電家具支援、応急修理制度、農業ボランティアなどの公的支援制度の紹介などの動きが活発になった。
- 8月5日 第1回 18名  
:
- 12月14日 第17回 10名

災害支援ふくおか広域ネットワーク  
DISASTER RELIEF NETWORK FUKUOKA

30



## 7月12日 ニーズ調査 久留米大学工業大学

31



## 7月12日 ニーズ調査 自治会長宅で雨宿りと 作戦会議

32



## 床下の状態確認

33

## 自治会長と一緒に訪問

- ・ 市議と自治会による事前調査が出来ている地域があり、より踏み込んだ調査ができた。
- ・ 事前に被災者の状況を把握し、支援者に共有
- ・ 畳と床板を剥がして、床下の状況確認がすぐに来た。
- ・ 民生委員がその役割をしてくれた地域もあった

34

## 信頼に基づく踏み込み

- ・ 信頼されている地域の方と一緒にいるからこそ、最初の訪問で、家に中にいれてもらって、畳と床板を剥がして、状態を確認させてもらえる。
- ・ 平成24年以降多重被災している地域もあり、その時から人間関係、元々抱えている課題等の共有もあった地域もあり、土砂の量だけない優先順位が設定できた。

35



## 地域の仮置き場 災害ゴミと土砂

36



## 公民館で昼休憩

37

## 事前復興

- ・ 災害ボランティアセンターから派遣されたボランティア以外の地元の支援活動
- ・ 地域の仮置き場を決めておけると災害ゴミ出しや土砂出しが素早く手配できる
- ・ 情報収集・伝達の仕組み
- ・ 関係者の駐車場の取り決め
- ・ 関係者の休憩場所の取り決め
- ・ **この事前復興も各地域で議論し、事前の決定しておくことで迅速な対応が可能**

災害支援ふくおか広域ネットワーク  
DISASTER RELIEF NETWORK FUKUOKA

38

## 団体とのコーディネート

災害支援ふくおか広域ネットワーク  
DISASTER RELIEF NETWORK FUKUOKA

39



泥を被った家財搬出  
久留米工業ASURA

40



災害支援ふくおか広域ネットワーク  
DISASTER RELIEF NETWORK FUKUOKA

災害ボランティアセン  
ターで調整  
床下対応  
福岡県防災士会

41



企業（福岡銀行）から  
の多人数参加者  
との合同ボランティア

42

## 団体で参加するボランティアの可能性

- ・ 団体の強み
  - ・ キャンセル率が低い、キャンセルがあっても補充がある
  - ・ 事前にチーム分けの依頼可能
  - ・ 各団体に得意なことがあるので、内容の相談も可能
- ・ 上記の強みを踏まえた上でのボランティアコーディネート
  - ・ 日程、人数、内容を含めた調整が可能。
  - ・ 平常時から連携できていると、その調整がよりきめ細かに

災害支援ふくおか広域ネットワーク  
DISASTER RELIEF NETWORK FUKUOKA

43

## 企業の強みを生かした連携 公共施設

災害支援ふくおか広域ネットワーク  
DISASTER RELIEF NETWORK FUKUOKA

44



災害支援ふくおか広域ネットワーク  
DISASTER RELIEF NETWORK FUKUOKA

大橋小学校のプール  
ポンプ、冷熱機械を  
開発している  
荏原製作所

45



災害支援ふくおか広域ネットワーク  
DISASTER RELIEF NETWORK FUKUOKA

田主丸図書館のカビ

46



災害支援ふくおか広域ネットワーク  
DISASTER RELIEF NETWORK FUKUOKA

田主丸図書館  
ポンプの貸出と設置  
荏原製作所

47



災害支援ふくおか広域ネットワーク  
DISASTER RELIEF NETWORK FUKUOKA

田主丸図書館  
森永乳業の殺菌料

48



災害支援ふくおか広域ネットワーク  
DISASTER RELIEF NETWORK FUKUOKA

田主丸図書館  
除湿器設置  
荏原製作所

49

企業の協力

- ・役に立ちたいと思っている企業は沢山ある。
- ・災害ボランティアセンターと連携した枠組みだけでなくその枠組みを越えた活動。
- ・外部支援を調整

災害支援ふくおか広域ネットワーク  
DISASTER RELIEF NETWORK FUKUOKA

50

外周り

- ・会議への参加を待つだけでなく、こちらから、訪問、参加して、連携を模索する
- ・支援の漏れや被りがないように
- ・全国災害ボランティア支援団体ネットワーク (JVOAD) と共に

災害支援ふくおか広域ネットワーク  
DISASTER RELIEF NETWORK FUKUOKA

51



子どもの居場所づくり  
このゆびとまれ  
パルキッズ久留米大学  
久留米大学学食

52



災害支援ふくおか広域ネットワーク  
DISASTER RELIEF NETWORK FUKUOKA

ペット支援  
日本レスキュー協会

53



災害支援ふくおか広域ネットワーク  
DISASTER RELIEF NETWORK FUKUOKA

農ボラ前の  
農業ボランティア  
がんばりよるよ星野村

54

## 生活再建

災害支援ふくおか広域ネットワーク  
DISASTER RELIEF NETWORK FUKUOKA

55



応急修理制度の活用  
建設会社（鍮水建  
設）との合同作業

56



## 災害がきっかけで 介護が必要に 看護師ネットワーク 包括支援センター

57

## 事業所や専門家の協力

- ・ 自宅にもどる為に応急修理制度を活用して、業者に見てもらいながら、家を修理する
- ・ 戻った自宅で生活する為に福祉や医療専門家に相談する
- ・ 介護認定をうけるかどうかの判断
- ・ 申請書作成や業者とのやり取りで心が折れて、申請を断念する被災者も多い。ここをサポートすることで、負担を軽くしてきた。
- ・ 行政、無料で代理申請して下さる行政書士会、司法書士会、弁護士会へ寄り添う活動

災害支援ふくおか広域ネットワーク  
DISASTER RELIEF NETWORK FUKUOKA

58

## 看護師ネットワーク

- ・ 災害ボランティアセンターには看護師さんも参画してもらい、災害ボランティアの医療ケアだけでなく水分補給の時に一緒に訪問してもらい被災者の健康状態の確認をしてもらえた。
- ・ その枠組みを越えて
- ・ 災害ボランティアに立ち会っている被災者の体調が悪くなった時に社協と職員さんとともに看護師さんを派遣してもらった。
- ・ 被災者が避難先の家族の健康状態に悩んでいるので、看護師さんにその避難先まで来てもらって、相談に乗ってもらった。病院嫌いの方が病院に行くようになり、介護認定へ。
- ・ **災害ボランティアセンターが、役割以外のコーディネートの場合に**

災害支援ふくおか広域ネットワーク  
DISASTER RELIEF NETWORK FUKUOKA

59



家電家具支援  
久留米市社会福祉協議会  
60

## 生活再建

- ・災害をきっかけに生活が困難になった被災者の支援
- ・公的補助金と民間補助金と寄付物品のどれを活用するか組み合わせるかをコーディネート

## まとめ

- ・ 平常時
  - 情報共有と連携
  - 災害ボランティア以外の団体とも情報共有と連携
- ・ 非常時
  - 会議による情報共有と連携
  - **災害ボランティアセンターの場を借りた情報共有と連携を促進する**
  - こちらから活動場所に訪問してお手伝いをして、情報共有と連携を促進する

## 災害支援ふくおか広域ネットワーク Fネット 入会申し込み

- ・ 申し込みフォーム  
<https://saigaishienfnet.wordpress.com/#nyukai>  
でお申し込みいただき、当ネットワークの幹事会で承認され次第、お振込先をご案内いたします。
- ・ ご入金の確認をもちまして入会完了となります。

